

小単元「1 憲法と政治のしくみ」の本時のねらいと子どもの学習状況を見取るためのチェックポイント（評価基準）

| 二学期制 | 三学期制 | 月 | 小見出し (○数字は配当時間) | 学習のねらい | 子どもの学習状況を見取るための チェックポイント(評価規準) |
|------|------|-----|-------------------------|---|---|
| 前期 | 1 学期 | 4 月 | 大単元の導入 ① | ・人々の生活などの写真から、人々の願いが政治の働きと結びつきがあることに気づき、政治に関わりのありそうな法やきまりを思い出し、憲法や政治学習への意欲を高めることができる。 | 【主体的】 人々の願いが政治の働きと結びつきがあることに気づき、政治に関わりのありそうな法やきまりを思い出し、憲法や政治学習への意欲を高めている。 |
| | | | くらしとつながっている政治／日本国憲法とは ① | ・地域の政治に関わりそうな事例と市の人の話から、国や地方公共団体の政治は、日本国憲法にもとづくものであることに気づき、日本国憲法と政治が自分たちのくらしとどのようにつながっているのかについて調べる計画を立てることができる。 | 【主体的】 日本国憲法と政治が自分たちのくらしとどのようにつながっているのかについて、進んで調べる計画を立てている。 |
| | | | 国民主権とは ① | ・日本国憲法の前文や内容から、日本国憲法は国民主権の考え方や国民が選挙を通じて政治に参加する制度を保障していることを理解することができる。 | 【知・技】 現在の日本の民主政治は、日本国憲法の基本的な考え方である国民主権の考え方と深く関わっていることを理解している。 |
| | | | 基本的人権と国民の権利・義務 ① | ・基本的人権と国民の義務について、自分たちのくらしと関連づけて考え適切に表現することができる。 | 【思・判・表】 基本的人権と国民の義務について、自分たちのくらしと関連づけて考え表現している。 |
| | | | 広がる基本的人権 ① | ・社会の変化とともに、これからの人権の保障について、どうあるべきか考え、話し合うことができる。 | 【思・判・表】 広がる基本的人権について調べ、これからの人権の保障はどうあるべきか考え、話し合っている。 |
| | | | 平和主義と人々の願い ① | ・日本国憲法の平和主義の実現を目指す国や地方公共団体、国民の取り組みの意味を考え、適切に表現することができる。 | 【思・判・表】 日本国憲法の平和主義の実現を目指す取り組みの意味を考え、ノートにまとめている。 |

| | | | | | |
|----|------|-----|-----------------|---|--|
| 前期 | 1 学期 | 4 月 | 国会のはたらきと国民の祝日 ① | ・国の政治が、国会、内閣、裁判所の三つの機関でおこなわれていることを調べ、国民の祝日などの法律ができる仕組みや選挙を通じて、国民と国会との関わりや国会の働きについてとらえることができる。 | 【知・技】 国会が国の唯一の立法機関であることや衆議院、参議院など国会の働きについて理解している。 |
| | | 5 月 | 内閣のはたらき ① | ・内閣の仕組みの図や税金の収入、支出のグラフ資料を調べ、税金の使い道や各省庁の働きなど、内閣の働きについて理解する。 | 【知・技】 内閣や各省庁によって国の政治がおこなわれていることを理解している。 |
| | | | 裁判所のはたらき ① | ・裁判所の仕組みを通じて、裁判所の働きを理解し、国会、内閣、裁判所が三権分立の仕組み、各機関の働き、裁判と国民との関わりについてとらえることができる。 | 【知・技】 裁判所の働きについて調べ、三権分立について理解している。 |
| | | | 学習問題の交流場面 ① | ・我が国の民主政治は、日本国憲法の基本的な考え方にもとづいていることを考え、わたしたちが今後、国の政治や日本国憲法の考え方とどのように関わっていくのか考え、学習を振り返ることができる。 | 【主体的】 自分が憲法や国の政治を学習する前の考えと比較し、今後どのように関わっていくか興味・関心をもっている。 |

小単元「2わたしたちの願いと政治のはたらき」の本時のねらいと子どもの学習状況を見取るためのチェックポイント（評価基準）

| 二学期制 | 三学期制 | 月 | 小見出し (○数字は配当時間) | 学習のねらい | 子どもの学習状況を見取るための チェックポイント(評価規準) |
|------|---------|--------|-----------------------------|--|---|
| 前期 | 1 学期 | 5 月 | 児童保育と待機児童について の問題 ① | ・年齢別人口などのグラフ資料から、児童保育の不足や待機児童の増加などの原因となる社会的な課題を調べ、待機児童などの問題以外にも、子どもをもつ家庭にはどのような悩みや願いがあるのかについて話し合うことができる。 | 【思・判・表】 児童保育の対象年齢層の人口は多くないことが分かり、そのことと共働き世帯や核家族の増加とに関係があることに気づいている。 |
| | | | 東京都足立区の区民の願いと 住区センター ① | ・江戸川区の住民の子育てなどの悩みや住区センターの取り組みを調べ、区がどのように住民の願いを実現していくのかについて、学習問題を考え、調べる学習計画を立てることができる。 | 【主体的】 自分が調べたいことを明らかにし、学習問題をみんなで話し合い、学習計画を考えて立てている。 |
| | | | 住区センターの取り組みと住 区センターの新設 ① | ・「住区センターの人の話」をもとに住区センターの役割について調べ、住民の願いをかなえる取り組みについて、区の果たす役割をまとめることができる。 | 【思・判・表】 住民の願いをかなえる区の果たす役割について、写真やグラフなどの資料を関係づけて考えている。 |
| | | | 区役所のはたらきと区議会 ① | ・図「住民の願いが実現するまでの流れ」や区役所の人の話などを調べ、住民の願いを実現するための区役所や区議会の働き、取り組みについて、理解することができる。 | 【知・技】 住民の新しい住区センター建設への要望がどのように実現されたのか、資料を活用し調べている。 |
| | | | 税金のはたらき ① | ・税金の種類や働きについて調べるとともに、区役所や区議会の働きをもとに、学習問題についての自分の考えをまとめることができる。 | 【思・判・表】 区役所や区議会の働きをもとに、学習問題についての自分の考えを話し合い、ノートに工夫してまとめている。 |

小単元「1大昔のくらしとくにの統一」の本時のねらいと子どもの学習状況を見取るためのチェックポイント（評価基準）

| 二学期制 | 三学期制 | 月 | 小見出し (○数字は配当時間) | 学習のねらい | 子どもの学習状況を見取るための チェックポイント(評価規準) |
|------|---------|------------|---|---|---|
| 前期 | 1 学期 | 5 月 | 大単元の導入 ① | ・我が国の歴史は、様々な人物が活躍したり、出来事が起こったりして変化してきたことを、大阪府堺市に残る遺跡や文化財について調べる活動を通じて気づき、歴史の学習への関心をもつとともに、歴史を学習するときに必要な学び方・調べ方について理解することができる。 | 【主体的】 我が国の歴史の変化から、歴史の学習への関心をもち、主体的に問題を解決しようとしている。 |
| | | | 大昔のくらし ② | ・縄文時代と弥生時代の様子を描いた想像図の比較を通して、自分たちの生活と比べながら、大昔の人々の生活の様子に興味・関心をもち、国が統一されていく時代についての学習問題をつくり、学習の見通しをもつことができる。 | 【主体的】 大昔のくらしの変化について、学習問題や予想をもち、学習計画を立てている。 |
| | | 6 月 | 狩りや漁の生活 ① | ・三内丸山遺跡や縄文時代の遺跡からの出土品をもとに、狩りや漁、採集をしていた時代の人々のくらしや社会の様子をとらえ、まとめることができる。 | 【知・技】 三内丸山遺跡や縄文時代の遺跡からの出土品をもとに、縄文時代の人々のくらしや社会の様子を理解している。 |
| | | | 米作りが広がったころ ① | ・米作りが広がったころの人々のくらしの様子を調べ、人々のくらしや社会の変化をとらえることができる。 | 【知・技】 米作りによって人々のくらしや社会がどのように変わったのかを理解している。 |
| | | | むらからくにへ ① | ・吉野ヶ里遺跡などを調べ、小さなむらが大きくなるへと統一されていく社会の変化を考えることができる。 | 【思・判・表】 米作りの広がりや大きくなるのなりたちを関連づけて、社会の変化を考え、ノートに工夫してまとめている。 |
| | | くにが統一される ① | ・大仙（仁徳陵）古墳の様子、出土品や古墳のつくり方などから、強い力をもった王や豪族が現れた古墳時代の様子を考えることができる。 | 【思・判・表】 古墳の大きさや出土品、古墳づくりなどから、当時の社会の様子について考え、ノートにまとめている。 | |

| | | | | | |
|----|---------|--------|-------------------|---|--|
| 前期 | 1 学期 | 6 月 | 大和朝廷と渡来人のかつやく ① | ・各地に大きな力をもった豪族が出現した古墳時代の様子を調べ、大和朝廷が、進んだ技術や新しい文化を伝えた渡来人との結びつきを強め、国を統一していったことをとらえることができる。 | 【知・技】 古墳時代の様子を調べ、大和朝廷が渡来人との結びつきを強め、国を統一していったことを理解している。 |
| | | | 神話や『風土記』に書かれたこと ① | ・神話や伝承などを手がかりに、国の形成に関する考え方などに関心を持ち、縄文時代・弥生時代・古墳時代の社会の仕組みと関連づけながら、国の起こりについて考え、適切に表現することができる。 | 【思・判・表】 縄文時代・弥生時代・古墳時代の社会の仕組みと関連づけながら、国の起こりについて表現している。 |

小単元「2天皇を中心とした政治」の本時のねらいと子どもの学習状況を見取るためのチェックポイント（評価基準）

| 二学期制 | 三学期制 | 月 | 小見出し (○数字は配当時間) | 学習のねらい | 子どもの学習状況を見取るための チェックポイント(評価規準) |
|------|---------|--------|--------------------|--|--|
| 前期 | 1 学期 | 6 月 | 法隆寺と聖徳太子 ① | ・古墳時代の建造物と比較することを通して、聖徳太子がおこなった政治に関心を持ち、聖徳太子がおこなった国づくりの様子について調べる視点をもつことができる。 | 【主体的】 法隆寺創建の様子と古墳建造の様子 の想像図を比較することを通して、聖徳太子 がおこなった国づくりに関心をもっている。 |
| | | | 聖徳太子を調べる ① | ・聖徳太子の業績を調べる活動を通して、当時の社会の様子や、どのように天皇中心の国づくりが進められていったのか考えることができる。 | 【思・判・表】 聖徳太子がおこなった政治の 仕組みを調べ、聖徳太子がどのような国を目指 したのか考え、表現している。 |
| | | | 新しい国づくり ① | ・中大兄皇子や中臣鎌足らによる大化の改新によって、大陸の政治の仕組みを参考にした天皇中心の国づくりが進められていったことを理解することができる。 | 【知・技】 中大兄皇子や中臣鎌足が取り入れ た税制や労働、大陸からの文化の摂取によっ て、強力な天皇中心の国づくりの基盤ができた ことを理解している。 |
| | | | 平城京と聖武天皇の願い ① | ・大仏がつくられたころの世の中について調べ、聖武天皇が、仏教の力で国を安定させようとしたことを考えることができる。 | 【思・判・表】 東大寺の大仏づくりに込めら れた願いについて考え、聖武天皇がどのように 国を治めようとしたのかを考えている。 |
| | | | 行基と大仏づくりを支えた人々 ① | ・東大寺の大仏は、行基の協力を得て、全国からたくさん材料と人を集めてつくられたことを理解することができる。 | 【知・技】 行基の協力を得て、全国からた くさんの材料と人が集められて大仏がつくれ たことを理解している。 |
| | | | よみがえる人々の暮らし ① | ・貴族の食事と農民の食事を比べ、当時の人々の生活の様子や身分による違いを理解することができる。 | 【知・技】 当時の食事の写真などから、当時 の人々の生活の様子や、身分による違いにつ いて読み取っている。 |
| | | 7 月 | 大陸からもち帰ったもの ① | ・遣唐使らによって、奈良の都に中国や西アジアなどの影響を受けた文化が伝えられ、栄えていたことを理解することができる。 | 【知・技】 遣唐使が果たした役割について考 え、外国との交流が当時の国づくりに大きな役 割を果たしていたことを理解している。 |

| | | | | | |
|----|---------|--------|------------|--|---|
| 前期 | 1 学期 | 7 月 | 鑑真と阿倍仲麻呂 ① | ・飛鳥時代と奈良時代に活躍した人のおこなったことを比較し、聖徳太子が目指した国づくりがどのように進められたのかを考えることができる。 | 【思・判・表】 聖徳太子が目指した政治が、 中大兄皇子や聖武天皇の国づくりにどのように 受け継がれているのかを考えている。 |
|----|---------|--------|------------|--|---|

小単元「3 貴族が生み出した新しい文化」の本時のねらいと子どもの学習状況を見取るためのチェックポイント（評価基準）

| 二学期制 | 三学期制 | 月 | 小見出し (○数字は配当時間) | 学習のねらい | 子どもの学習状況を見取るための チェックポイント(評価規準) |
|------|------|----|--------------------|--|---|
| 前期 | 1学期 | 7月 | 貴族のくらしを調べる ① | ・「貴族のやしきのようす」を読み取ることを通して、当時の貴族のくらしを想像し、平安時代の文化に関する学習に興味をもって取り組むことができる。 | 【知・技】 貴族のくらしぶりを読み取り、当時の貴族のくらしに対する自分の意見を、根拠を示してまとめている。 |
| | | | 藤原道長を調べる ① | ・藤原道長及び平安時代の貴族のくらしぶりを理解するとともに、平安時代の文化を調べることに着目した学習問題をつくり、学習計画を立てることができる。 | 【主体的】 藤原道長及び、平安時代の貴族のくらしぶりに着目し、進んで学習問題を考え、学習計画を立てている。 |
| | | | 日本風の貴族文化が生まれる ① | ・文化が生まれ発展した背景、当時の文化の様子、現在とのつながりなど、貴族が生み出した文化について理解することができる。 | 【知・技】 資料から、この時代に生まれた新しい文化の様子を読み取り、それらを理解している。 |
| | | | 貴族の願い ① | ・貴族の願いや悩みと、その解消方法を理解することができるとともに、学習問題に対して自分なりの意見をもつことができる。 | 【思・判・表】 貴族の文化について調べたことを、残されている物や年中行事、当時の時代背景、さらには現在と関連づけて考え、表現している。 |

小単元「4 武士による政治のはじまり」の本時のねらいと子どもの学習状況を見取るためのチェックポイント（評価基準）

| 二学期制 | 三学期制 | 月 | 小見出し (○数字は配当時間) | 学習のねらい | 子どもの学習状況を見取るための チェックポイント(評価規準) |
|------|------|----|--------------------|---|--|
| 前期 | 2学期 | 9月 | 武士の登場/武士のくらし ① | ・武士のくらしと貴族のくらしを比べる活動を通して、貴族にかかわって武士が国の政治をつかさどるようになったことを学ぶとともに、当時の社会の様子や人々の生活の移り変わりについて関心をもち、学習への意欲を高めることができる。 | 【主体的】 2枚の想像図などをもとに武士のくらしと貴族のくらしの違いについて考え、武士が力をもつことによって世の中の様子がどのように変わったかを学習問題を立てて調べようとしている。 |
| | | | 源氏と平氏の戦いと鎌倉幕府 ① | ・武士がどのように全国に勢力を広げ、政治の表舞台に立ったかを理解するとともに、その後、長く続く武家の政権がどのように成り立ち、武士はどのような願いをもって世の中をつくっていったのかを考えることができる。 | 【思・判・表】 多くの武士が平家から源頼朝の味方になった理由を調べ、自分の考えを表現している。 |
| | | | 源頼朝が鎌倉に幕府を開く ① | ・鎌倉に政権を開いた頼朝の意図と、どのようにして武士による全国支配を可能にしていたのかを知るとともに、その政権の安定に不可欠な御家人との協力体制を、その後の政権も引き継ぎ確立していったことを理解することができる。 | 【知・技】 鎌倉幕府が安定して全国を治めるために守護・地頭を置いたことや、街道を整備したことを理解している。 |
| | | | 元との戦い ① | ・元との戦いについて、絵詞や写真などの資料をもとに戦いの様子をつかみ、この戦いが鎌倉幕府滅亡の要因になったことを考えることができる。 | 【思・判・表】 元との戦いによって生活に窮した武士が鎌倉幕府に手当てを求めたが、幕府は有効な手を打てなかった理由について考えている。 |
| | | | 元との戦いのあと ① | ・元軍との戦いのあと、御恩と奉公の関係がくずれ、鎌倉幕府と御家人の関係もくずれ、鎌倉幕府が滅びたことを理解することができる。 | 【知・技】 鎌倉幕府が滅びた要因と、その後も武士の世の中が続いていくことを理解している。 |

小単元「5今に伝わる室町の文化と人々の暮らし」の本時のねらいと子どもの学習状況を見取るためのチェックポイント（評価基準）

| 二学期制 | 三学期制 | 月 | 小見出し (○数字は配当時間) | 学習のねらい | 子どもの学習状況を見取るための チェックポイント(評価規準) |
|------|---------|--------|----------------------|--|--|
| 前期 | 2 学期 | 9 月 | 室町幕府が置かれた京都 ① | ・朝廷があり、幕府が置かれた京都の様子と、現在、京都市に残る室町時代につくられた建造物について調べ、室町時代の文化の特色や現在の暮らしとの関わりについて関心を持ち、学習問題や学習計画を立てることができる。 | 【主体的】 室町時代の文化の特色や現在の暮らしとの関わりについて関心を持ち、学習問題を考え、学習計画を立てている。 |
| | | | 金閣と銀閣を調べる ① | ・金閣と銀閣に関わる資料を活用して、金閣と銀閣の建造物としての特徴や、義満や義政が将軍だったころの様子について調べることができる。 | 【知・技】 義満や義政が将軍だったころの文化や世の中の様子を、写真や資料などを活用して理解している。 |
| | | | 今に伝わる室町文化 ① | ・室町時代に広まった様々な文化を調べ、当時に生まれたこの文化が、日本の伝統文化や現代も親しまれる文化になっていることを理解することができる。 | 【知・技】 室町時代に広まった様々な文化が、日本の伝統文化や現代も親しまれている文化になっていることを理解している。 |
| | | | 水墨画を完成させた雪舟 ① | ・雪舟の働きによって、水墨画が書院造とともに室町時代の文化として位置づき、広まっていったことを理解することができる。 | 【知・技】 雪舟の働きを調べ、水墨画が書院造とともに室町時代の文化として位置づき、広まっていったことを理解している。 |
| | | | 鎌倉・室町を生きた人々のくふうや努力 ① | ・室町時代の貴族や武士以外の人々の様子をとらえ、室町時代の様子や文化の特色、現代とのつながりを、これまでの時代と比較しながら考え表現することができる。 | 【思・判・表】 室町時代の様子や文化の特色、現代とのつながりについて、これまでの時代と比較しながら考え、ノートにまとめている。 |

小単元「6戦国の世の統一」の本時のねらいと子どもの学習状況を見取るためのチェックポイント（評価基準）

| 二学期制 | 三学期制 | 月 | 小見出し (○数字は配当時間) | 学習のねらい | 子どもの学習状況を見取るための チェックポイント(評価規準) |
|------|---------|---------|--------------------|--|---|
| 後期 | 2 学期 | 10 月 | 安土桃山時代の人々の暮らし ① | ・教科書の「今から約 500年前の市のように」をもとに戦国時代の人々やまちの様子について具体的にイメージをもち、活発となった商業や河川を利用した物の流通のあり方について考えることができる。 | 【主体的】 「今から 500 年前の市のように」の想像図をもとに、戦国時代の人々や生活の様子について想像している。 |
| | | | 長篠の戦いを調べる ① | ・教科書の「長篠合戦図屏風」をもとに、鉄砲という新しい武器による戦い方の変化、天下統一に向けての 3 人の武将に対して学習問題を見つけ出し、学習計画を立てることができる。 | 【主体的】 「長篠合戦図屏風」をもとに、鉄砲が伝わり、戦いの仕方が変化したことを読み取り、3 人の武将について興味関心を高め、学習計画を立てている。 |
| | | | 新しい時代を切りひらいた織田信長 ① | ・織田信長の人物調べを通して、短い期間に信長が領土を拡大したことや、信長の天下統一の進め方について理解することができる。 | 【知・技】 教科書の資料をもとに織田信長の人物像や働きについて理解している。 |
| | | | 豊臣秀吉の天下統一 ① | ・豊臣秀吉の人物調べを通して、信長の意志を引き継ぎ天下を統一し、検地や刀狩を通して戦国の世を終わらせたことを理解することができる。 | 【知・技】 教科書の資料をもとに豊臣秀吉の人物像や働きについて理解している。 |
| | | | 江戸に幕府を開いた徳川家康 ① | ・徳川家康の人物調べを通して、江戸に幕府が開かれ、幕府による全国支配が固められていったことや、家康がどのような政治を目指したかを理解することができる。 | 【知・技】 教科書の資料をもとに徳川家康の人物像や働きについて理解している。 |

小単元「7 武士による政治の安定」の本時のねらいと子どもの学習状況を見取るためのチェックポイント（評価基準）

| 二学期制 | 三学期制 | 月 | 小見出し (○数字は配当時間) | 学習のねらい | 子どもの学習状況を見取るための チェックポイント(評価規準) |
|------|------|------|-----------------------|--|--|
| 後期 | 2 学期 | 10 月 | 大名行列のようす／大名行列の費用や日数 ① | ・大名行列の費用や日数に関する資料をもとに、幕府はどうして参勤交代を命じたか、幕府はどのような政治をおこなおうとしたかについて予想し、学習計画を立てることができる。 | 【主体的】 教科書の「大名行列のようす」の想像図をもとに、大名行列の様子を調べ、なぜ幕府が「大名行列」を命じたかについて考え、学習計画を立てている。 |
| | | | 江戸幕府による大名支配 ① | ・大名の配置や武家諸法度などについて調べ、江戸幕府が大名支配を強めていったことに関心を持ち、資料から江戸幕府の大名支配について読み取ることができる。 | 【知・技】 絵や図、記述資料をもとに、江戸幕府がどのような大名支配の仕組みをつくりあげたかを読み取っている。 |
| | | | 江戸時代の身分制と人々のくらし ① | ・幕府や藩は、武士による支配体制を維持・強化していくために、身分の違いをもとに、いっそうの身分の固定化を図ったことを考え、自分の意見を発表することができる。 | 【思・判・表】 幕府や藩が身分の違いをもとに、いっそうの身分の固定化を図ったことを考えて、ノートに自分の考えをまとめている。 |
| | | | キリスト教の禁止と貿易の取りしまり ① | ・島原・天草一揆やキリスト教の禁止、鎖国の理由について調べ、鎖国下での貿易の様子について理解することができる。 | 【知・技】 キリスト教の禁止と鎖国の理由について調べ、鎖国下での貿易の様子について理解している。 |
| | | | 江戸時代の外国との交流 ① | ・オランダとの貿易や朝鮮通信使などについて調べ、鎖国政策のもとでの外国との交流の様子、あわせて北海道や沖縄の歴史について関心を高めることができる。 | 【主体的】 朝鮮通信使について調べ、日本との関係について関心をもっている。 |

小単元「8 江戸の社会と文化・学問」の本時のねらいと子どもの学習状況を見取るためのチェックポイント（評価基準）

| 二学期制 | 三学期制 | 月 | 小見出し (○数字は配当時間) | 学習のねらい | 子どもの学習状況を見取るための チェックポイント(評価規準) |
|------|------|------|--------------------|--|---|
| 後期 | 2 学期 | 11 月 | 江戸のまちのようす ① | ・「江戸のまちのようす」の絵図を手がかりに、町人のくらしや武士との関係に関心を持ち、学習計画を立て、学習の見通しをもつことができる。 | 【主体的】 江戸のまちや人々のくらしの様子に関心を持ち、学習計画を立てて意欲的に追究しようとしている。 |
| | | | 盛んになった産業 ① | ・江戸時代の産業や百姓のくらしの変化について調べ、人々の工夫や努力によって各地の産業が発展した様子を理解することができる。 | 【知・技】 農業技術の向上により、耕地面積増加につながっていったことを理解している。 |
| | | | 力をつける町人 ① | ・江戸時代の町人のくらしの変化について調べ、産業や交易の発展とともに江戸や大阪などのまちが発展し、町人がどのように力をつけていったのかを理解することができる。 | 【知・技】 五街道や航路の発達により、大阪や江戸のまちの商業が発達し、町人の生活が豊かになっていったことなどが、まちの人口の増加につながっていったことを理解している。 |
| | | | 町人文化の広がり ① | ・町人が力をつけていったことで生まれた文化や学問に関心を持ち、主に歌舞伎や人形浄瑠璃などを調べ、町人文化が栄えたことについて考えることができる。 | 【主体的】 江戸時代の人々の楽しみに関心を持ち、意欲的に調べ、考えながら追究しようとしている。 |
| | | | 国学の広がり子どもの教育 ① | ・幕府が重んじた儒学や新しく起こった国学や寺子屋について調べ、それらが社会に果たした役割について意欲的に調べることができる。 | 【主体的】 江戸時代の学問に関心を持ち、意欲的に調べようとしている。 |
| | | | 蘭学のはじまり ① | ・杉田玄白や伊能忠敬の功績について調べ、蘭学という新しい学問が生まれ、社会に様々な影響を及ぼしたことを理解し、江戸時代の人々のくらしについて文化や学問にふれながら自分の考えを明らかにすることができる。 | 【思・判・表】 江戸時代の人々のくらしについて、文化や学問にふれながら自分の考えを明らかにしている。 |

| 二学期制 | 三学期制 | 月 | 小見出し (○数字は配当時間) | 学習のねらい | 子どもの学習状況を見取るための チェックポイント(評価規準) |
|------|---------|---------|-------------------------------|---|--|
| 後期 | 2 学期 | 11 月 | 江戸時代から新しい時代へ／ 明治時代の学校の様子 ① | ・江戸時代と明治時代のまちの様子を比較することを通して、人々のくらしが欧米の文化や制度を取り入れたことで大きく変化したことを理解するとともに、新しい国づくりがどのように進められたのかについて興味をもって調べる学習計画を立てることができる。 | 【主体的】 江戸と東京のまちの様子や人々のくらしの変化を進んで見つけ、そのような変化が起こった理由を予想したり考えたりして、学習計画を立てている。 |
| | | | 黒船の来航と開国 ① | ・世の中が大きく変わるきっかけとなった黒船の来航について調べ、江戸時代末期の動乱の様子や幕藩体制の衰えなどを踏まえながら、開国せざるを得なかった理由を考えることができる。 | 【思・判・表】 時代の変化のきっかけとなった黒船の来航について調べ、開国せざるを得なかった理由を考えている。 |
| | | | 江戸幕府の政治のおとろえ ① | ・開国後の国内の影響について調べ、幕府や藩の政治の失敗や物価の上昇に対する民衆の不満から天皇中心の国家をつくる運動が起こり、武士の世の中を終わらせることにつながったことについて理解することができる。 | 【知・技】 世の中の様々な動きに問題意識をもって調べ、調べたことをもとに、開国から倒幕までの世の中の状況を理解している。 |
| | | | 新しい政府による政治 ① | ・新政府がおこなった政策について調べ、新政府がどのような世の中をつくっていかうとしたのかを考えることができる。 | 【思・判・表】 新政府がおこなった様々な政策を調べ、新政府がどのような世の中をつくっていかうとしたのかを考えている。 |

| | | | | | |
|--|--|--|---------------|--|---|
| | | | 豊かな強い国をめざして ① | ・「富国強兵」や「殖産興業」について調べ、様々な政策や欧米からの学びにより我が国の近代化が進んだことを理解することができる。 | 【知・技】 「富国強兵」や「殖産興業」に向けての様々な政策や欧米からの学びにより、我が国の近代化が進んだことを理解している。 |
|--|--|--|---------------|--|---|

| | | | | | |
|----|---------|---------|------------------|--|--|
| 後期 | 2 学期 | 11 月 | 文明開化とくらしの変化 ① | ・明治時代の人々のくらしについて興味をもって調べたり、時代の変化について年表にまとめたりすることを通して、日本は近代化によって人々のくらしや文化にも変化が起こったことを考えることができる。 | 【思・判・表】 日本は近代化によって人々のくらしや文化に変化が起こったことを理解し、時代の変化についてノートや年表にまとめている。 |
|----|---------|---------|------------------|--|--|

| 二学期制 | 三学期制 | 月 | 小見出し (○数字は配当時間) | 学習のねらい | 子どもの学習状況を見取るための チェックポイント(評価規準) |
|------|------|------|--------------------|--|---|
| 後期 | 2 学期 | 12 月 | 近代産業の発達 ① | ・製糸場の写真や、西南戦争と鹿鳴館の舞踏会の絵図を手がかりにして、明治維新の後、新しい国づくりをした日本の動きに関心を持ち、学習問題を立てることができる。 | 【主体的】 日本の国際的地位の変化とその背景に関心を持ち、問題解決の見通しをもって主体的に学習問題を設定しようとしている。 |
| | | | 自由民権運動のおこり ① | ・自由民権運動の高まりについて調べ、人々が新しい政治の願いについて考えることができるようにする。 | 【思・判・表】 国会の開設に備えて政党をつくった板垣退助の働きやその後の政府の対応などについて、教科書の本文記述や資料から自由民権運動の意義について考えている。 |
| | | | 大日本帝国憲法の発布 ① | ・自由民権運動の高まりから、明治政府は発足後20年ほどで憲法を制定し、立憲政治を確立したことや、国民の政治参加の面では不十分であったことを理解することができる。 | 【知・技】 大日本帝国憲法は、天皇中心の憲法で、国民の権利には様々な制限があったことを理解している。 |
| | | | 国会の開設 ① | ・大日本帝国憲法が制定されてから国会が開設されるまでの過程を調べ、明治政府が目指した政治のあり方がどのようなものだったのかを考え、話し合うことができる。 | 【思・判・表】 憲法制定と国会開設は、近代的な国家の仕組みを整えるために必要だったことを表現している。 |
| | | | 不平等な条約を改正する ① | ・年表などをもとに日本の近代化について調べ、明治政府が条約改正に努め、欧米諸国との対等な関係の構築に努力したことを読み取ることができる。 | 【知・技】 条約改正を願う人々の思いや政府の取り組みを理解している。 |

| | | | | | |
|----|------|------|-------------------------------|--|--|
| 後期 | 2 学期 | 12 月 | 中国・ロシアと戦う ① | ・日清・日露戦争について調べ、二つの戦争を経て日本の国際的地位が向上したいっぽうで、朝鮮半島に勢力を拡大したことを理解することができる。 | 【知・技】 日清・日露戦争の原因や過程・結果を知り、日本の国際的地位が向上し、朝鮮半島に勢力を拡大したことを理解している。 |
| | | | 日露戦争後の日本と世界のように世界でかつやくする日本人 ① | ・日露戦争後に日本が韓国にとった政策や、世界で活躍した日本人などを調べ、日露戦争後の日本とアジアや欧米諸国との関係について考えることができる。 | 【知・技】 日露戦争後の日本の植民地政策を調べることを通して、日本や朝鮮の人々の思いや、世界で活躍する日本人が現れたことについて理解している。 |
| | | | 産業の発展と人々の暮らし ① | ・日清・日露戦争のころの日本国内の産業や、第一次世界大戦後の人々の暮らしの様子について調べ、近代化が進められたことや、女性の社会進出が進んだいっぽうで、公害の問題が起きたことを理解することができる。 | 【知・技】 産業の発展にともなって、近代的な生活が広がったことや、多くの人々の苦労や努力によって支えられていたことを理解している。 |
| | | | よりよく生きる権利を求めて ① | ・社会運動について調べ、当時の人々が自由と権利を求めて立ち上がったわけについて考え、明治・大正時代に日本の国力が充実していった様子について話し合い、自分の考えを明確にしたり、深めたりすることができる。 | 【思・判・表】 明治・大正時代に日本の国力が充実していった様子について、学習したことをノートにまとめ、友だちと話し合っている。 |

| 二学期制 | 三学期制 | 月 | 小見出し (○数字は配当時間) | 学習のねらい | 子どもの学習状況を見取るための チェックポイント(評価基準) |
|------|---------|--------|-------------------------------------|--|--|
| 後期 | 3 学期 | 1 月 | 第一次世界大戦のあとの日本のようす／不景気におそわれた人々の暮らし ① | ・日清・日露戦争を経て、国力を高めてきた日本が、第一次世界大戦からのヨーロッパ諸国の立ち直りと関東大震災、世界恐慌の影響を受け、不景気におちいったことを理解するとともに、その1930年当時の日本の様子から学習問題を見出し、今後の日本の歩みについて学習計画を立てることができる。 | 【主体的】 当時の写真や地図、グラフなどの資料を手がかりとして、1930年当時の日本の様子を調べ、その後の日本の歩みについて意欲的に学習問題を考えている。 |
| | | | 孤立する日本、混乱する国内 ① | ・1930年当時、不景気に苦しむ日本が大陸に進出し、満州事変に至る経過と理由をとらえることができる。 | 【知・技】 満州事変以降の日本国内の様子や、日本と世界、中国との関係を理解している。 |
| | | | 広がる戦争 ① | ・地図、写真から、日本が中国との全面戦争になり、東南アジアから太平洋にまで戦場が広がっていった結果、アメリカ・イギリスとの太平洋戦争に突入していったことをとらえることができる。 | 【知・技】 戦場が中国からアジア・太平洋の地域へと広がっていった様子や、それぞれの地域に大きな損害を与えたことを理解している。 |
| | | | 戦争の拡大と大きく変わった人々の暮らし ① | ・戦争の拡大に伴い、占領地の人々に様々な影響が及んだことや、国民生活が戦争中心になっていく過程を調べ、戦争が人々の生活に大きな影響を与えたことを考えることができる。 | 【思・判・表】 戦争中のアジアや国内の人々の暮らしを調べ、人々が生命の危機にさらされ、自由を奪われた窮乏生活を強いられたことを考えている。 |

| | | | | | |
|--|--|--|--------------------|--|---|
| | | | 不利になる戦争と子どもや女性たち ① | ・戦争中の子どもや女性の暮らしについて、戦争体験者から直接話を聞いたり、手記などの資料を集めたりしながら調べることができる。 | 【知・技】 戦争中の子どもや女性の暮らしについて聞き取ったり、資料を集めて読み取ったりしながら、必要な情報を集めている。 |
|--|--|--|--------------------|--|---|

| | | | | | |
|----|---------|--------|---------------------|--|---|
| 後期 | 3 学期 | 1 月 | 空襲で焼きつくされる国土 ① | ・アメリカ軍の攻撃で、兵士だけでなく多くの一般国民が戦争の犠牲になったり、家を失ったりしたことをとらえることができる。 | 【知・技】 本土への空襲、沖縄での地上戦を調べ、兵士だけでなく、多くの一般国民が戦争の被害にあったことを理解している。 |
| | | | 広島と長崎への原爆投下と日本の敗戦 ① | ・原爆投下による甚大な被害によって、日本が全面降伏し、戦争が終結したことをとらえ、これまでに学習してきたことをもとに、学習問題について話し合うことができる。 | 【思・判・表】 戦争や戦争中の人々の暮らしについて調べたり考えたりしたことを、根拠をもとに新聞などに表現し、話し合っている。 |

| 二学期制 | 三学期制 | 月 | 小見出し (○数字は配当時間) | 学習のねらい | 子どもの学習状況を見取るための チェックポイント(評価基準) |
|------|------|----|-----------------------------|---|---|
| 後期 | 3学期 | 1月 | 戦争によって破壊されたまち／終戦直後の人々の暮らし ① | ・戦争によって破壊されたまちの様子や、戦後の人々の暮らしの様子を調べ、戦後の住むところに苦労したり、食べるものが少なかったりした時代から現在のよな豊かな暮らしができるようになるには、どのような苦労があったのかを考え、学習問題を見出すことができる。 | 【主体的】 終戦直後と現在のまちの様子や人々の暮らしの様子などを比較することなどを通して、学習問題や学習の計画を考えている。 |
| | | | 新しい国づくりがはじまる ① | ・日本は連合国軍の指令を受けて民主化のための改革を進めたことを調べ、平和で民主的な国としての基本を示した日本国憲法を制定したことを理解することができる。 | 【主体的】 戦後の主な改革について資料から読み取るとともに、当時の人たちの新しい憲法への思いを考えている。 |
| | | | 日本の国際社会への復帰 ① | ・サンフランシスコ平和条約と、日米安全保障条約について調べ、アメリカとソ連とが東西冷戦の対立を深めていくなかで、日本がアメリカとの関係を深めたことを理解することができる。 | 【知・技】 アメリカとソ連との対立のもとで、日本はアメリカとの関係を深めたことを理解している。 |
| | | 2月 | 発展した日本経済 ① | ・日本の経済が急速に発展した高度経済成長の様子や技術革新やインフラの整備されたことなどを通し、国民総生産が伸びたことともに、公害や石油ショックなどの困難な状況について調べ、日本の経済成長の様子について理解することができる。 | 【知・技】 高度経済成長の背景について考え、まとめている。 |

| | | | | | |
|----|-----|----|-------------------|--|---|
| 後期 | 3学期 | 2月 | 経済の発展と人々の暮らしの変化 ① | ・経済が発展したことで人々の生活が変化してきたことを、身近な電化製品などを調べることを通して理解するとともに、健康保険や年金などの社会保障制度が整えられてきたことについて考えることができる。 | 【思・判・表】 「三種の神器」などの家庭での生活の道具の変化がどのように人々の生活の変化につながっているかを考えている。 |
| | | | 国際社会のなかの日本 ① | ・オリンピックや万国博覧会などの国際社会と日本との関わりについて調べ、経済が発展するとともに国際社会のなかで世界の国々との友好を深めたり、文化の向上に貢献してきたりした日本の役割を考えることができる。 | 【思・判・表】 国際社会における日本の役割について、今までの取り組みを踏まえて、自分の考えをノートなどにまとめている。 |
| | | | 日本と国際社会をとりまく問題 ① | ・戦後、経済的に発展してきた日本に残された、領土などの課題について調べ、これからの未来に向けて期待される自分たちの役割について考えることができる。 | 【思・判・表】 領土や国境をめぐる課題の解決へ向けて、自分の考えをノートなどにまとめている。 |
| | | | これからの日本とわたしたち ① | ・戦後の経済成長や国際的な役割を担ってきた日本の姿や、これから解決しなくてはならない課題などについて話し合い、歴史を学ぶ意義を考えるとともに、これから自分たちに期待されていることを意欲的に考え、表現することができる。 | 【主体的】 歴史学習全体を振り返り、歴史を学ぶ意義やこれから考えたいことについて、意欲的に自分の考えを振り返りシートなどにまとめている。 |

| 二学期制 | 三学期制 | 月 | 小見出し (○数字は配当時間) | 学習のねらい | 子どもの学習状況を見取るための チェックポイント(評価規準) |
|------|---------|--------|---------------------------|--|---|
| 後期 | 3 学期 | 2 月 | 大単元の導入 ① | ・海外で活躍する日本人の姿から、世界の国に目を向け、日本とのつながりや国際交流について興味をもち、調べてみたいという思いをもつことができる。 | 【主体的】 既存の知識や地図の情報などから、日本人の活躍やその国の様子について考え、調べている。 |
| | | | 日本とつながりの深い国々 ① | ・日本とつながりのある国について知っていることを出し合い、日本とつながりがある国について、より深く調べたいという思いをもち、学習計画を立てることができる。 | 【主体的】 調べたいことを明確にして、調べ方やまとめ方の見通しをもって計画を立てている。 |
| | | | アメリカ合衆国の暮らし／子どもたちのようす ※② | ・アメリカと日本との歴史や貿易などのつながり、子どもの学校生活の様子、人々の暮らしの様子について調べ、生活や文化・習慣について理解することができる。 | 【知・技】 アメリカと日本との貿易などのつながり、子どもの学校生活の様子、人々の暮らしの様子について理解している。 |
| | | | 中華人民共和国の暮らし／子どもたちのようす ※ | ・中国と日本との歴史や経済、文化のつながり、子どもの学校生活の様子、人々の暮らしの様子について調べ、生活や文化・習慣について理解することができる。 | 【知・技】 中国と日本との歴史や文化などのつながり、子どもの学校生活の様子、人々の暮らしの様子について理解している。 |
| | | | ブラジル連邦共和国の暮らし／子どもたちのようす ※ | ・ブラジルと日本とのつながり、子どもの学校生活の様子、人々の暮らしの様子について調べ、生活や文化・習慣について理解することができる。 | 【知・技】 ブラジルと日本とのつながり、子どもの学校生活の様子、人々の暮らしの様子について理解している。 |
| | | | 調べてきた国々のようす ① | ・日本と世界の国々とのつながりについて学び、世界の国々の多様性に気づき、共通点や相違点を見出し、そこでくらす人々とのように交流しているのかを追究したいという思いをもつことができる。 | 【主体的】 調べた国のことを振り返り、世界の人々の多様性について考えようとしている。 |

| | | | | | |
|----|---------|--------|---------------|--|---|
| 後期 | 3 学期 | 2 月 | スポーツによる国際交流 ① | ・オリンピックやパラリンピックなど、スポーツを通じて国際交流することで、お互いの歴史や文化を理解し、尊重し合って平和な世界をつくる努力をしていることを考えることができる。 | 【思・判・表】 スポーツを通じた国際交流について調べ、どんな意義があるか考えている。 |
| | | | 文化による国際交流 ① | ・スポーツ以外にも、国際的な文化交流、または日本からの文化発信を通して、世界中の国々が相互理解を図り、平和な世界を実現しようとしていることを理解し、その意義について考えることができる。 | 【思・判・表】 文化的な国際交流について調べ、それについてどんな意義があるか考えている。 |

※調べる国については、3か国の中から1か国を選択

| 二学期制 | 三学期制 | 月 | 小見出し (○数字は配当時間) | 学習のねらい | 子どもの学習状況を見取るための チェックポイント(評価規準) |
|------|------|----|--------------------|---|---|
| 後期 | 3学期 | 3月 | 世界がかかえるさまざまな問題 ① | ・写真資料を通して、世界がかかえる様々な問題について話し合い、誰が、どのように解決しようとしているのかを考え、予想することができる。 | 【主体的】 写真資料をもとに、世界がかかえる様々な問題について調べ、話し合いを通して意欲的に学習問題を立てている。 |
| | | | 国連のはたらきと目的 ① | ・国連憲章を調べることを通して、国際連合がどのような目的でつくれられ、どのような働きをしているのかを考え、まとめることができる。 | 【知・技】 国連憲章をもとに、国連の目的や安全保障理事会、ユニセフ、ユネスコの働きについて調べ、世界の平和と国際協力を目指して活動する国際連合の働きについて考え、まとめている。 |
| | | | 世界の平和と国連 ① | ・戦争や紛争、飢えや病気に苦しむ人々の現状に問題意識をもち、国連やユネスコの活動を意欲的に調べ、問題の解決のために自分と関わらせながら解決に向けて考えようとしている。 | 【主体的】 戦争や紛争、飢えや病気に苦しむ人々の現状に問題意識をもち、国連やユネスコの活動を意欲的に調べ、問題の解決のために自分と関わらせながら解決に向けて考えている。 |
| | | | 世界の環境保全と国連 ① | ・地球規模で起きている様々な地球環境問題を通して、持続可能な開発のためには国連が中心となり、各国やNGO、市民が協力して取り組むことが大切であることを理解する。 | 【知・技】 地球環境問題を通して、国連が中心となって国やNGO、市民が協力して地球環境問題に取り組むことで、持続可能な開発が可能になることを理解している。 |

| | | | | | |
|--|--|--|-----------|---|--|
| | | | 日本の国際協力 ① | ・日本がおこなっている発展途上国への教育や農業、医療などの支援や援助の様子を調べることを通して、さまざまな分野で日本は国際協力に参加していることをとらえ、文章にまとめている。 | 【知・技】 日本は青年海外協力隊などによる支援を通して、様々な分野で日本は国際協力に参加していることをとらえ、文章にまとめている。 |
|--|--|--|-----------|---|--|

| | | | | | |
|----|-----|----|-------------|---|--|
| 後期 | 3学期 | 3月 | 学習問題の交流場面 ① | ・「持続可能な開発目標（SDGs）」をもとに、これから世界の人々と共に生きていくために自分たちに何ができるかについて、考えを表現している。 | 【主体的】 17の目標の中から一つ選び、これまで学習してきたことをもとに、世界の人々とも生きていくために自分がこれから取り組みたいことを考え、グループのなかで発表し、意見を交流している。 |
|----|-----|----|-------------|---|--|